

発行/三原市人権推進課

編集/三原市大和人権文化センター

住所/三原市大和町下徳良107番地1

電話/0847-33-1308

大和人権文化センターだより

10月の各教室等のご案内

フィールドワーク

日時 10月27日(金)
8:00~18:00

研修箇所 呉市下蒲刈町(松濤園他)
呉市豊町(御手洗町並み保存地区)

参加費用 2,000円

※申し込みは、10月20日までにお願いします。
なお、詳しい内容については、お申し込み後に
連絡します。

さわやか健康体操

日時 5日(木)・12日(木)・19日(木)・26日(木)
13:30~14:30

持参物 バスタオルなど床に敷くもの

問い合わせ先 高齢者福祉課(0848-67-6055)

大和地域センター心配ごと相談

日時 10月20日(金)
9:00~12:00

場所 大和人権文化センター 会議室

相談内容 暮らしの相談

相談員2名で対応します。

次回は、11月17日(金)の予定です。

電話による相談も受け付けています。

大和保健福祉センター(0847-34-1214)

大和人権文化センター(0847-33-1308)

2017だいわ元気まつり展示

展示期間 10月11日(水)から10月18日(水)まで

展示場所 大和人権文化センター 1階会議室

展示内容 四國五郎さん作品展(絵画・年賀状・絵本)

『人権の碑』記録集パネル展示

子どもの書道作品展示(大和小学校の児童)

四國五郎さんの紹介

四國五郎さんは、1924年三原市大和町椋梨生まれの画家・挿絵画家・絵本作家・詩人です。戦争を生き延びた者の立場から戦争と平和を見据え、核兵器の恐ろしさや平和の尊さを訴え続けてこられました。

『人権の碑』の紹介

善道キクヨさんは、1899年三原市大和町椋梨に生まれ、17歳の時に「からゆきさん」としてマレーシアへ。その後、数多くの人の尽力により74歳で里帰りし、77歳で永眠されました。

厳しい差別の中で生きてきたキクヨさんの生涯をたどりながら、人権意識に満ちた町づくりを進めていくために、「人権の碑」が建立されました。



人権の碑建立(1995年)

第3回人権学習会より(開催日:9月2日)

地域力をどう高めるか？

大和人権文化センターにおいて、今年度第3回目の人権学習会を開催しました。

今回の学習会は、広島県解放保育連絡会委員長の沖村暁美さんを講師にお迎えし、「おとな子どもも、ともに生きる地域づくり」と題して学習会を行いました。

沖村さんは、胎児期から母親の声が聞こえている事、味覚・臭覚もおとな並みで、タバコやお酒の味も覚えている事や、0歳から1歳の時期は、子どもと触れ合う中で、母親との関係を深める大切な時期であることを話されました。

また最近の傾向として、遊び方がわからない、コミュニケーションの仕方がわからない等、子どもとどう接したらよいか悩んでいる母親が多いことや、また地域づくりが崩れつつあることが子どもに大きな影響を与えていること等、多くの課題を指摘されました。

その中でも、沖村さんは自らの子育てを通して学んだことをご自身の孫に実践する中で、関わっていくことの大切さや、子どもを育てていく上で地域交流が必要不可欠であることを話をされました。

子どもは、遊びを通していろんな事を体験する中で、集団の大切さを学んでいきます。

最近子育てが変わったと言われますが、それは親が未熟だからではなく、子どもが本来体験すべきことができなくなったり、地域力が低下する等、子どもを取りまく環境が大きく変化しているからです。

少子化が進む今日、私たちおとなが、将来を担う子どもたちに、どう関わっていくのか共に考えていきましょう。

参加者の声

自分たちの子育て時代のお話であったと思います。昔の子育てがよかった。現在若い人に今日のお話のようなことでも言ったら、反対にめんどくさいおばあさんと言われ、悲しいかぎりです。



【人権学習会ノートより】

子育てが変わったと言われるが？

変わったこと

- ・子どもが本来体験すべきことができなくなっている
- ・自然、環境破壊
- ・家の電化
- ・育児用品の改良
- ・祖父母が働いている
- ・地域力の低下

変わらないこと

- ・子どもを伸ばす関わりは、従来から言われているものばかり
- ・オムツを替えるとき声をかける
- ・天気の良い日には外に連れて行く

※子どもの発達には環境に大きく左右される